

# 公的支援「13億円必要」

## 鳥取短大看護大構想試算示す 山田学長

県議会自民党視察

鳥取短期大学(倉吉市福庭)が受け皿となる「看護大学構想で、県議会自民党は8日、

同短大などを視察。山田修平学長は看護大学設置に当たって開設時に約16億円の資金が必



看護大学設置への課題や鳥取短大の現状を自民県議に説明する山田学長(左)＝8日、倉吉市福庭の鳥取短期大学

要な試算を明らかにし、約13億円の「公的支援が不可欠」とする課題を提示した。

同短大の事業計画では、文科省は大学新設は認可しない基本姿勢であることから、組織改編で対応。1学年300人の総定員を維持したまま現行3学科(国際文化交流、生活、幼児教育保育)の定員を組み換え、定員80人の看護学部(4年制)を新設。教員19人、事務職員14人が必要とした。

資金面では校舎施設整備と人件費など開設時に15億9400万円、4年間の累計で29億7600万円が必要と試算。同短大の内部留保は約20億円あるが、同省は学部新設の際に使用可能な内部留保金は残高の15%までというルールを定めており、同短大が出せる資金は3億円。このため初期投資で13億円の公的支援が不可欠という。

さらに私学補助金が申請できない期間(学部新設後4年)の経営支援、教員と看護実習受け入れ先の確保、奨学金制度も求めた。

一方、来年度から空き校舎となる河北中学校(同市上井)の活用では、短大側はキャン

パス分離のマイナスイメージを指摘。看護学部は現キャンパス内に建設し、クラブ活動での河北中グラウンド使用を希望した。

山田学長は「他学科を減らしても覚悟を決めて(看護大学を)やりたい。多くの負担を背負う取り組みを理解いただきたい」と強調。県議会自民党の鉄幸率紀会長は「将来の方向性を会派でまとめる本格議論の第一歩にした」と語った。